

特集

「全国よい仕事研究交流集会 2013」報告

全国よい仕事研究交流集会在2014年2月15日、16日に日本教育会館で開催をしました。『協同労働の「よい仕事おこし運動」を職場から地域へ』（人が育ち・学び・つながる、地域がつながり、みんなで支え合う本物の豊かさを、自分たちで作ります、地域の文化と仕事の創造へ）をテーマとして、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会、労協センター事業団、日本高齢者生活協同組合連合会、協同総合研究所が主催で開催しました。

当日は、関東地方を中心に大雪に見舞われ、1日目は、506名の参加予定のところ、276名、2日目は363名の参加となりました。

昨年度のよい仕事研究交流集会との一番の違いは、4つのシンポジウム、フォーラムの集大成として、「よい仕事研究交流集会2013」が開催したことでした。「10/5 自立・就労支援社会化推進フォーラム」「11/9-10 建物総合管理・コミュニティ施設よい仕事コンテスト」「12/14-15 第15回全国ケアワーカー集会2013」「1/11-12 子ども・若者フォーラム」の4つのフォーラムでは、当事者・市民が主体となって、地域をつくることや社会を変えることの理念や実践事例を深めました。

本集会の1日目、第1部では「いのちの時間に寄り添って、居場所と仕事を地域で創る」をテーマとしたリレートークとパネルディスカッション。第2部では「いのちをつなぐ働き方～協同労働の社会的価値を語る」（作家の天童荒太と労協連の永戸理事長）の総括対談を行いました。2日目は12の分科会で、参加者1人ひとりが学びを得ることができました。

「よい仕事を深め、実践をすることは、いのちをつなぐことにつながる。」この間、子ども・若者フォーラムでお話いただいた「中村桂子氏」（JT生命誌研究館館長）や本集会の「天童荒太氏」（作家）の話を聞きながらの率直な感想である。「協同労働」と「生きること」が急激に接近をしながら、人間と自然が分離して考えるのではなく、ホリスティック（Holistic＝全体として見る）な考え方が重要であると感じました。

大雪の影響で、多くの方が来られなかったこともありますので、この冊子を活用し、よい仕事を考え、現場の実践に活かしていただければ幸いです。また紙面を作成するに当たり、多くの方に関わっていただいたことに感謝いたします。

※第2部の総括対談は紙面の関係上で、2日目の第12分科会は厚生労働省社会福祉推進事業の研究委託の中間報告であったために、本号では記載をしませんでした。総括対談については2014年2月25日の日本労協新聞でご確認いただければと思います。また第12分科会で話をしました社会福祉推進事業の生活困窮者の調査・研究の最終報告書につきましては、協同の発見259号（2014年6月号）に特集を組んでいますので、次号でご確認いただければと思います。

協同総合研究所 相良 孝雄